

2023年12月25日作成

Ver.2.2

**難治性咳嗽患者の下気道検体における糸状担子菌の分離に関する研究****1、研究の目的と意義**

本研究の対象疾患は、難治性咳嗽です。8週間以上持続する咳嗽症状は慢性咳嗽と定義されています。慢性咳嗽の原因疾患としては咳喘息、アトピー性咳嗽、逆流性食道炎、感染後咳嗽等の頻度が高く、各原因疾患に応じた精査および治療が行われていますが、慢性咳嗽患者のうち5～10%は治療抵抗性であり、これを難治性咳嗽としています。近年の研究で、この難治性咳嗽患者のうちの一部の患者さんは、糸状担子菌 *Bjerkandera adusta* (ヤケイロタケ) と呼ばれるカビの一種が原因である可能性が示唆されています。しかし、喀痰から糸状担子菌 *Bjerkandera adusta* を検出するためには一部の限られた専門機関で行う必要があります。長崎大学病院ではこの検査が可能であり、難治性咳嗽の患者の検体のみで糸状担子菌 *Bjerkandera adusta* が分離・同定できれば、難治性咳嗽の原因として今後検査法や治療法に関するさらなる研究の対象となると考えられます。

**2、対象となる患者さん**

以下の条件（基準）を満たす患者さんが対象になります。

- ・2022年6月1日～2024年3月29日までに長崎大学病院第二内科で難治性咳嗽と診断された方もしくは、2022年6月1日～2023年12月29日までに長崎大学病院第二内科を受診された、難治性咳嗽でない方（その他の呼吸器疾患患者の方）
- ・診療目的で喀痰による真菌培養検査を受けられた方
- ・喀痰による真菌培養検査を受けられた時に18歳以上だった方

その他、あなたの治療歴や現在の病状、服薬中のお薬などを担当医師が確認し、研究への参加が可能かを総合的に判断します。

**3、研究の方法**

この研究では、喀痰中に真菌が存在するかどうかを調査する（目的）ために、以前に通常の診療で喀痰培養検査を行なった時の情報を使用します。

**4、研究に用いる情報**

電子カルテより下記の情報を収集します。

1. 患者背景：年齢、性別、喫煙歴、既往歴、合併症、アレルギー歴
2. 自覚症状：喀痰培養検査時の呼吸器症状の有無
3. 併用薬：喀痰培養検査時の抗菌薬および抗真菌薬使用の有無、吸入薬使用の有無、ステ

ロイドおよび免疫抑制剤使用の有無、抗癌剤使用の有無

4. その他の呼吸器疾患患者さんについては、疾患名
5. 喀痰による真菌培養検査の結果

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

## 5、研究期間

研究機関長の許可日～2025年3月31日。

本研究は研究機関長の許可日より「4.研究に用いる情報」を利用する予定です。

## 6、外部への情報の提供

該当なし

## 7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 医歯薬学総合研究科 呼吸器内科学 准教授 尾長谷 靖

## 8.お問い合わせ先

＜研究担当者＞

長崎大学病院医歯薬学総合研究科 呼吸器内科学 准教授

氏名：尾長谷 靖

＜連絡・問い合わせ先＞

長崎大学病院 第二内科

住所：長崎県 長崎市 坂本1丁目7番1号

電話：095-819-7273（第二内科 医局）

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）